

山武市学校のあり方検討委員会 第3回会議録

1 日 時	平成 25 年 2 月 7 日(木) 午前 10 時から午後 0 時 4 分
2 場 所	山武市役所 第 6 会議室
3 出席委員	16 名
4 欠席委員	1 名
5 講 演	演 題 「グローバル経済の進む中での人材育成」 講 師 七井副委員長（城西国際大学教授）
6 協議事項	① 就学区域及び区域外就学について ② 先進地視察について ③ 意見交換 ④ その他
7 事務局説明者	教育総務課長、学校教育課長、学校教育課指導室長外

○ 開 会

○ 委員長あいさつ

○ 講 演

【10 分間休憩】

○ 協 議

(1) 就学区域及び区域外就学について

事務局：資料に基づき、就学区域及び区域外就学についての説明（P1～P5 までを学校教育課長、P6～を学校教育課指導室長）

(2) 先進地視察について

事務局：資料に基づき、先進地視察についての説明（教育総務課長）

〈質疑及び意見交換〉

委員長：(1) 就学区域及び区域外就学について、資料の中で図に円を描いて通学距離を示していただいたが、小学校が 4 k m、中学校が 6 k m の範囲の根拠はあるのか。

事務局：義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する施行令第 4 条で、適正な学校規模の条件があり、通学距離については、小学校にあってはおおむね 4 k m 以内、中学校にあってはおおむね 6 k m 以内であることとしていることから、これを根拠として円を描いて示した。

委 員：例えば小学校の通学距離半径 4 k m の円を描いていただいたが、実際の通学路は直線ではなく道のりなので、あまり意味がないとまでは言わないが、現実とはそぐわない部分があると思う。

委 員：以前、睦岡小学校は 5 年、6 年生は自転車に通えたが、現状はどうなのか。

事務局：芝山町や富里市寄りの地区は自転車を通っていると思われるが、何 k m 以上だと自転車での通学が可能かの資料を持ち合わせていないので、次回に提示したいと思う。

委員長：各小中学校の通学について、どのような決めごとがあるのかを、資料でお示しいただきたい。

委員：2km位だったと思う。

委員：区域外就学について説明があったが、学校の現状も踏まえてお話しさせていただく。先程の説明の中で、松尾中学校の区域外就学の数が気になったところではあるが、区域外就学の変更も弾力的になってきて、区域外の就学が増えてきているのは確かである。特にこのことについては、児童生徒の数によって、学級数や教員の数が決まってくる訳なので、例えば2学級になるのか3学級になるのかの、ぎりぎりのところで1名増えて1学級増える。3学級になれば学級の生徒数が少なくなってきめ細かなことにも対応できる。ということで非常に気をもんでいるところである。いろいろな保護者の考え方もあると思うが、先程の七井副委員長の話で興味をもったのは、地元で育てて地元で活用する、人材の地産地消ということで、個人的な意見だが、いろんな理由があるにしても地元の学校に行きたくて勉強する。それがやがて大きくなって地域社会の中で、例えば、同じ地域でも違う学校に通っていた子どもたちが、将来大きくなって一緒に地域社会で生活する時に、本当にそれでいいのかなと常に感じている。部活が無いので別の学校に行きたいという理由も分かるが個人的には先程述べた気持ちがある。学校としては、地元の中学校に行きたくて良かったというよりは、地元より別の学校に行った方がもっと良くなったと言われることを一番懸念している。そう意味で地域から信頼される学校になろうと今頑張っているところだが課題はある。

委員長：地域コミュニティをどう考えるかということに力点を置いて考えると、できるだけ区域外の就学は少なくなった方が好ましい。つまり6年間、3年間をその地域の中である種の友情を育ててその地域で育っていくことは、大人になっても強い絆として残るということもあるので、地域としては、地域で学ぶことはコミュニティをつくるうえで利点になる。しかし、それぞれの個人のことを考えると、もっといいところを選択するというところもある。なかなか難しい問題である。

委員：この問題は非常に難しい問題だと思う。どちらを先に選択するかというのも一つであると思う。例えば、将来の中学校の生徒数、成東中で平成24年度の247名が、平成36年度に200名。松尾中も極端な言い方をすると100名位減る。そうするともちろん学級数は減る。今は我々の時代(兄弟の多い世代)とは違って、家庭でもどちらかという平均的に過保護に育てているように見えるので、生徒がお互いに切磋琢磨するには、やはり大勢の中でもまれるような中で、世の中に出ても切磋琢磨された方が、個人のいろいろな力が身に付くのではないかと多々感じている。ですから、地域も大事だし、また、大人になって社会に対応できるお子さんになっていただくのが一番の基本だと思うが、どちらにしても一長一短ある。これは将来統合するという話ではなく、保護者の方の意見も相当取り入れて対応しなければいけないと感じている。

委員長：次回は3月下旬に会議を予定しているが、その会議ではアンケートについて協議いただくことになるが、保護者の方の意見はそのアンケートの結果をみて、市民の皆さんがどのように考えているか議論いただきたい。

委員：区域外就学について、他市町から子どもが入ってくる場合に財政的負担はあるのか。それから、区域外就学の子供もたちによってクラス編成が発生する可能性はあるのか。

委員長：大切な視点である。他から来ている多く来ていてその費用を山武市が負担している。要求してもいい気がする。よそをお願いしたり受けたり学校は受け入れてもいいが、財政的な問題はどうか。

事務局：家庭に配布する印刷物、消耗品関係はそれほど多くはないが当然市の負担である。また、準要保護の申請も数名あり山武市で負担している。

教育長：この問題については定例の教育委員会でも議題にあがっている。数名であればともかく20、

30、40、50名となった場合には無視できない問題が起こる。ですが、隣接する市町が一つであればなんら問題がないが、山武市は多数の市町と隣接している。ある自治体においては隣接と協定を結んでいるところもある。これだけ多くの子どもたちが出入りするようになったら、このままではいけないので、せめて山武地区においても協議の場を設けて、一定の規則(ルール)をつくろうということになっている。新年度になったら山武地区の教育委員会で担当者を決めて協議に入ろうと考えている。

委員：クラス編成はかわってくるのか。

事務局：山武南中は、日向小と山武西小からくる訳だが2学級の編成になる。源地区の源小(東金市)から15名程度の区域外就学が認められて3学級を維持している現状である。

委員：近隣の市町、県内での取り決めの状況はどうか。

教育長：知る限りでは1対1で隣接している市町で取り決めがあるのは承知しているが、大きな範囲においてそういう取組みがされているのは承知していない。近く県の教育長が集まる場もあるので情報収集してみたいと思う。

委員：別の件に関してだが意見させていただく。もとに戻って申し訳ないが、検討委員会の設置要綱の最初の3行(設置及び目的)を読んでつまづいてしまったのだが、第1条の中に「幅広い見地から検討し、方向性を見出す」とあり、方向性を見出すとはどういうことなのか。方向を照らすものなのか、周辺なのか右なのか左なのか、選択肢が三つあったらその中から安全、確実、的確な部分を見出していくのかということところが、自分の中で軸ができていないというか理解できていないでいる。自分の中での理解を創りだしたいがちょっと見えないでいる。

委員長：とても重要なことである。方向性というのは答申という形で出ていくと思う。ですから、答申というものをどのような形にするかは、これからアンケートをとったり視察を行ったり、様々な協議をして、論点整理はもう少し先に行おうと思っているが、整理された論点について皆さんからご意見をいたくというのが方向性である。今のところは五里霧中というようなお考えでいいのでは。第1回の会議でも話があったが、この検討委員会は学校の統廃合ありきということではスタートしないと私から皆様に申しあげだ。そういう意味で委員からお話があった方向性について、ある種の合意をするまでの間に、私どもがどのような考え方をするかという、今のところは見えないところで壁の形を触っているというように、お考えをいただければと思う。答えになっているのかなっていないのか、わからないがいかがか。

委員：委員の任期は3月まで。いつまでにやらなければ決めないと、いつまでたってもできない。

委員長：答申を出すのは来年の3月を予定しているが委員任期の問題がある。私どもはそれぞれの代表者として任期があつてここにいるが、3月末でそれぞれの代表者がみんな代わってしまったら、どうなるのかが委員長として大変困った問題である。

私から皆様方へお願いがある。第3回をかけて現状について議論を重ねてきたが、3月末で委員が全て代わって、また始めから積み重ねていくのではいつまでたっても答申が出ないということになるので、この委員の皆様で来年の3月まで頑張って答申を出していきたいというのが私からのお願いである。そのような形でどうか進めていきたいと考えているのでそのことを念頭においてご議論を賜りたいと思う。

先程、委員からお話のあった方向性について、3月15日に視察に行くのでそのことも念頭において視察をしていただきたい。今の時点ではフリーハンドということをお考えをいただきたいと思う。

委員：方向性を見出すとは結局、私の勝手な解釈で自分自身にいろんなポケットをつくっておけばいいのかとを感じるが、それでいいのか。

委員長：それで結構である。合議をしてすり合わせをして一定の方向を見出していく。方向性という

のは答申の中で出るということになる。

委員：私も方向性という理解がまだはっきりしていない。何をどうするのか具体的なものが見えてこないのが現状である。ただ、私がひとこと言いたいのは、やはり小学校、中学校は義務教育が第一なので、義務教育ということで地域と教育環境の整備の2点を重視して、今後考えていきたいと思う。そういった考えが方向性でもいいのではないか。

委員：町村合併してからというかバブルが弾けてから人口が減ってきて、学校の児童生徒がどんどん減り続けている中で「学校をどうしたらいいのだろう」という話はあちこちで聞かれていた。いっぱい出ていたけれど、それを具体的に取り上げる場もなかった。やっとここにきて、やっとそれについて考えましようというものが、ここで今立ち上がったところだと思う。本当に取っ掛かりの会が開かれていて、それまではどこでもそれについてみんな思っていたが話をしていなかった。聞いても「ですけどね」という感じだった。それをじゃあとりあえず現状はどうなのかということから始めて、今本当に何も分からず暗中模索で始まったところなので、これからどうなるかという第1案というか、方向性をつくっていく取っ掛かりの会合だと思う。

委員長：先程申したが、もう少し進んだら小学校の数はどうなのかなどのいくつかの論点をお示しして、その中でまたご議論いただくことになると思う。事務局とは論点整理を行なおうかと話はしたが、まだそこには至っていない。つまり、アンケートを行って市民の皆さんがどうお考えか、視察をしてきて答申を見てどんな具合かというような様々なことを検討して、その結果として方向性を見出していく。論点を整理すればかなりシビアなご意見をいただかなければならないということもあるかもしれないが、そのように進めさせていただきたいと思う。

委員：先程委員長から委員の任期についてお話があったが、私は校長会の代表であり学校の場合特殊というか、異動なども考えられるのでその辺考慮いただければと思う。

委員長：それについては十分存じて申し上げたので、できるだけそういうようなことでお願いしたいと申し上げている。

※委員長から会議録(第1回、2回)の確認について、各委員に依頼し2月14日までに訂正の連絡が無い場合は、市ホームページで公表することとなった。

(4) その他

事務局から次回の検討委員会の日程について説明。

※3月15日(金)に視察研修、3月下旬に本年度最後の検討委員会を行う。内容は、来年度実施するアンケート内容や答申に向けてのスケジュール等について検討していただく予定。

○ 閉会